

経済の強靭性を高める強いアジアの域内協力と投資

アジア開発銀行 (ADB) チーフエコノミスト

澤田康幸

アジア開発銀行 (ADB) の最新報告書のひとつである「2017 年アジア経済統合報告書」(AEIR: Asian Economic Integration Report 2017) によると、世界の経済・貿易の政策をとりまく環境が不透明な中で、アジア・太平洋地域内における貿易と投資の連携が拡大し、域内経済の耐性を高めている。この調査報告書において、ADB は近年の地域統合のトレンドを検証し、新しい地域統合指標を紹介しており、本報告ではその概要に基づきつつ、北東アジアの経済統合の現状と課題についてまとめる。

堅調な域内貿易と投資は、アジア太平洋地域にとって、世界の貿易や経済成長の不確実性に対する緩衝材の役割を果たしている。アジアの域内貿易の比率は、金額ベースで、2010 年～2015 年の平均 55.9% から、2016 年は過去最高の 57.3% に上昇した。

2016 年、世界各地域からアジアへの海外直接投資 (FDI) 流入額は 6% 減少したが、アジア域内国間での FDI は、2720 億ドル (絶対値) に達した。域内の FDI 総額に対する域内国間の FDI の比率は、2015 年の 48% から 2016 年は 55% に増加した。アジア域内国間の FDI が、世界全体あるいは地域におけるバリューチェーンの発展に寄与しているとすれば、アジア地域における貿易の拡大が世界規模で強められていくだろう。アジア経済は引き続き、世界的にその存在感を増している。アジアからの FDI は、主に再生可能エネルギー、天然資源、半導体および情報技術への投資により、2016 年には 11% 増加、4820 億ドルにも達した。

本報告書では新たな複合指標となるアジア・太平洋地域協力・統合指標を紹介している。この指標は、貿易・投資、通貨・金融、地域バリューチェーン、インフラ・連結性、人の移動、そして制度的・社会的な統合という 6 つの要素について、地域統合の度合いを計量するものである。この指標は、さらなる地域統合・協力を推進するための方策についての政策立案者の理解を深め、その状況が把握できるようにすることを目的としている。今回は、特にアジア・太平洋地域協力・統合指標を、ロシアを含む北東アジアについて構築したものも紹介し、北東アジアの経済統合の現状と課題を議論する。

いずれにしても、世界の経済・貿易政策の方向性が不透明な中、北東アジア地域、そしてアジア・太平洋地域全体は、世界貿易の回復を牽引しており、勢いのある成長を維持している。北東アジアとアジア全体の統合と協力を継続してゆくことが、今後の地域の経済成長と金融の強靭性を支えていく。